

## インターバンクの声（2014年7月16日）

昨夜の欧米市場は、米連邦準備制度理事会（FRB）イエレン議長による議会証言に注目が集まっていたが、他にも英消費者物価指数、独 ZEW 景況指数、米大手金融の決算発表などが相場を動かすに十分インパクトのある内容だったことで、久々に主要通貨の多くが大きめの変化を見せた。

その中でもとりわけ大幅な変化を見せたのが英ポンド。まだ東京勢もオフィスに残っている時間帯だったが、6月の消費者物価指数が予想を上回り、早期利上げ観測がさらに広がり、一気に100ポイント近い上昇となった。ポンドとは逆に下落反応となったのがユーロ。7月の独 ZEW 景況指数が大幅に予想を下回り、ユーロは6月中旬以来となる安値レベルに押し込まれるきっかけとなった。

イエレン議長の議会証言では、ドル売りとドル買い反応を短時間で両方迫られる結果となり泡を食うディーラーも数多くいた。議長は米景気回復が依然として不完全であるとの認識を示したことで、全体的には金融緩和維持が適切であるとされたが、労働市場が予想以上に早いペースで回復すれば早期利上げの可能性があることにも言及したことで、引き続き雇用統計への注目度は強く、強い経済指標の発表が重なれば利上げ観測期待も強まりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。